

声 明

衆議院厚生労働委員会での 「年金カット」法案の採決強行に断固抗議する

高齢者の命とくらし、若者の未来を守るために
年金制度の抜本的改善を目指す慎重な再審議を！

際限なく年金を下げ続ける「年金カット」法案を審議していた衆議院厚生労働委員会で、与党自民党・公明党と維新は本日 25 日、一方的に審議を打ち切り、採決を強行した。昨年 9 月の「戦争法」強行採決に続く、民主主義蹂躪の暴挙であり、断じて認められない。

安倍政権は、現行の貧しい年金制度を改善するどころか、まともな根拠なく、「年金制度の維持、現役世代の年金を守るためだ」として、民進党や共産党の追及にまともに応えないまま、年金制度をさらに改悪し、年金を下げ続ける「年金カット」法案の採決を強行した。

この日午前の参考人質疑でこの法案に反対の立場から意見を述べた年金者組合の代表は、年金裁判の原告の陳述を紹介しつつ、この間の年金減額によって高齢者の生活がいつそうせっぱ詰まった状況に追い込まれていることを切々と訴えていることを示し、国民の老後の安心、「最低限度の文化的生活」を保障するために、最低保障年金制度の確立とマクロ経済スライドの廃止などをふくむ年金制度の抜本的改善を検討することこそが求められていることを力説した。

年金者組合は、衆議院厚生労働委員会の採決強行に断固抗議するとともに、採決を取り消し、法案を再度委員会審議に差し戻して、抜本的制度改善を目指す慎重な審議を行うよう強く求める。

2016 年 11 月 25 日

全日本年金者組合
中央執行委員長 富田 浩康